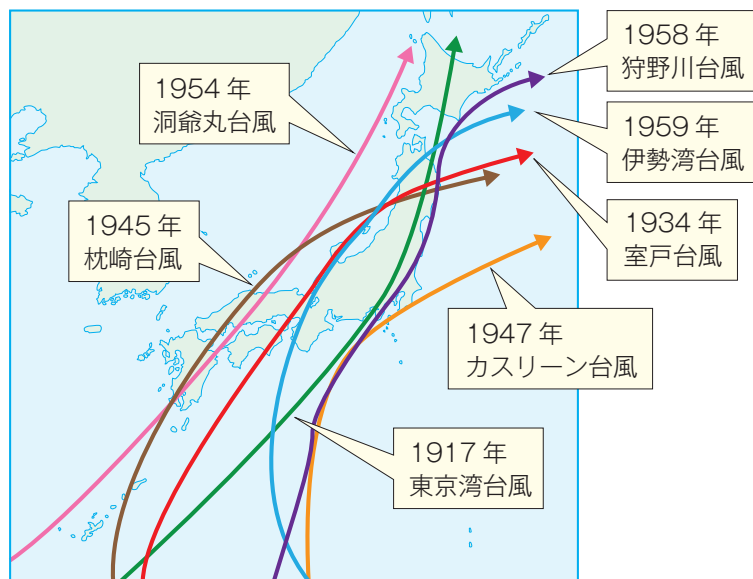


日本に大きな被害をもたらした台風

過去には猛烈な台風が日本に上陸して、大きな被害をもたらしたことが数多くあります。とくに室戸台風・枕崎台風・伊勢湾台風は、上陸したときの気圧が低く、昭和の三大台風と呼ばれています。

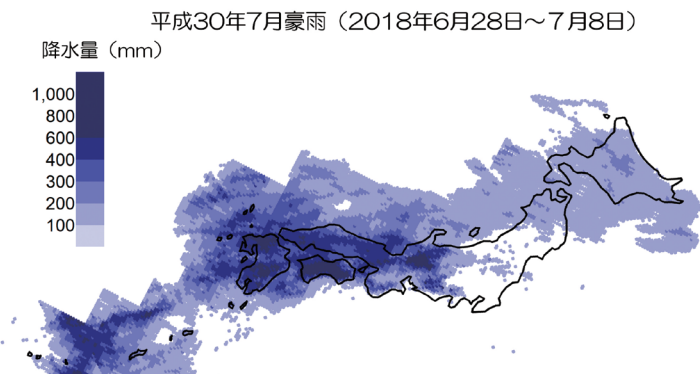
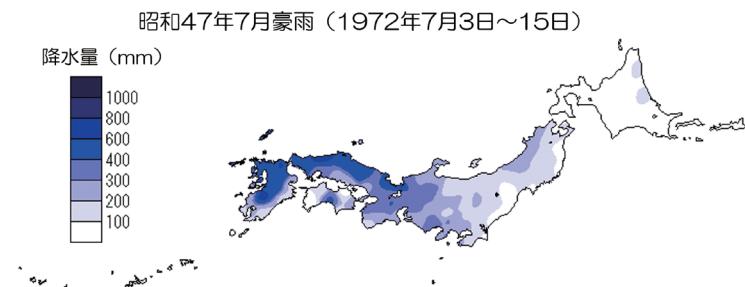


日本に大きな被害をもたらした過去の台風の経路

| 台風の名前 | 日付 | 死者・行方不明者数 | 主な被害 |
|---------|------------|--------------------|------------|
| 東京湾台風 | 1917年10月1日 | 1324人 ⁷ | 東京湾で高潮 |
| 室戸台風 | 1934年9月21日 | 3036人 ⁸ | 大阪で木造建物が倒壊 |
| 枕崎台風 | 1945年9月17日 | 3756人 ⁸ | 終戦直後の広島が被災 |
| カスリーン台風 | 1947年9月15日 | 1930人 ⁸ | 北関東で記録的な大雨 |
| 洞爺丸台風 | 1954年9月26日 | 1761人 ⁸ | 函館沖で客船が沈没 |
| 狩野川台風 | 1958年9月26日 | 1269人 ⁸ | 伊豆半島で河川が氾濫 |
| 伊勢湾台風 | 1959年9月26日 | 5098人 ⁸ | 伊勢湾で高潮 |

繰り返す西日本広域水害

梅雨前線が停滞すると、西日本の広い範囲に大雨が降ることがあります。昭和47年7月豪雨（1972年）や平成30年7月豪雨（2018年）がその例です。



昭和47年7月豪雨の期間降水量⁹、および平成30年7月豪雨の期間降水量（「解析雨量」より作図）。

被害の比較

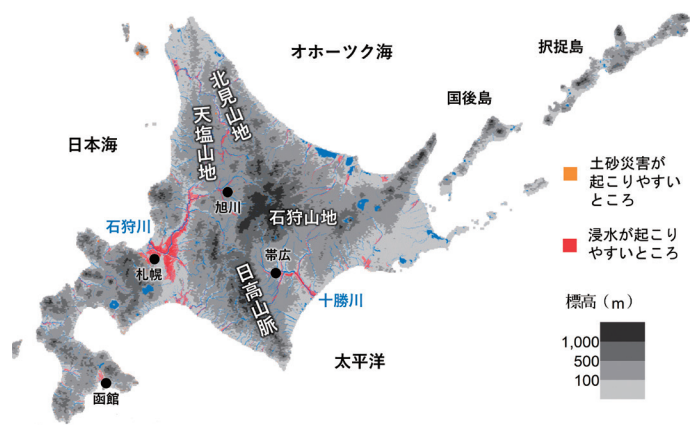
| | 昭和47年7月豪雨 ⁹ | 平成30年7月豪雨 ¹⁰ |
|----------|------------------------|-------------------------|
| 死者・行方不明者 | 447人 | 245人 |
| 全壊家屋 | 2977軒 | 6767軒 |
| 床上浸水 | 5万5537軒 | 7173軒 |

北海道



| DATA | |
|---------|--|
| 道の木/道の花 | ・エゾマツ/ハマナス |
| 道庁所在地 | ・札幌市 |
| 面積 | ・83424 km ² (1位) |
| 人口 | ・532万人 (8位) ¹⁾ |
| 主な日本一 | ・じゃがいもの生産量 ²⁾ ・乳製品の出荷額 ³⁾ ・人口あたりの コンビニエンスストア数 ⁴⁾ |

北海道は低気圧がよく通る場所であり、発達した低気圧による強風で、家屋の倒壊、船の沈没、火災、吹雪などの災害が起こりやすいところです。また台風の通過によって大雨が降ることもあります。北海道の中央部には北見山地や日高山脈があって、冬には日本海側でたくさんの雪が降りますが、太平洋側ではそれほどでもありません。内陸部の冷えこみはきびしく、最低気温が-10℃以下になる地域があります。



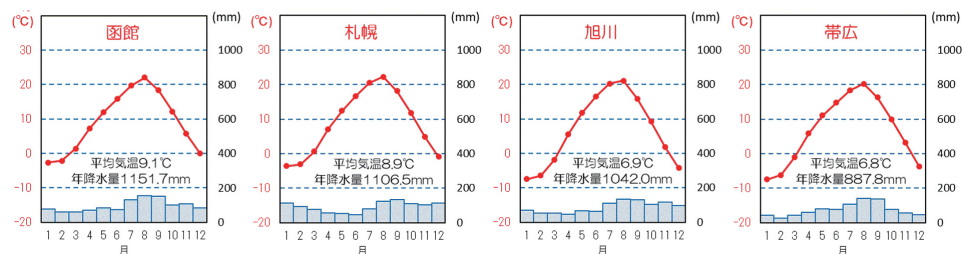
土砂災害が
起こりやすい
ところ

浸水が起こり
やすいところ

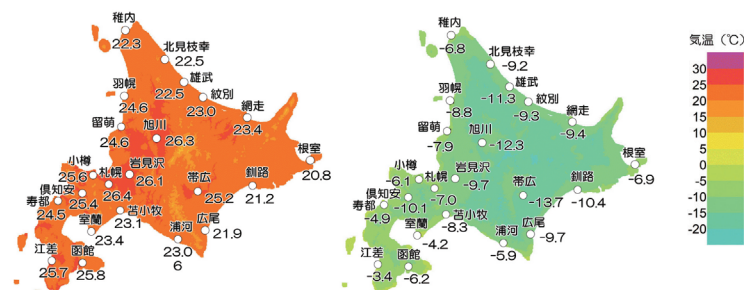
標高 (m)

1,000
500
100

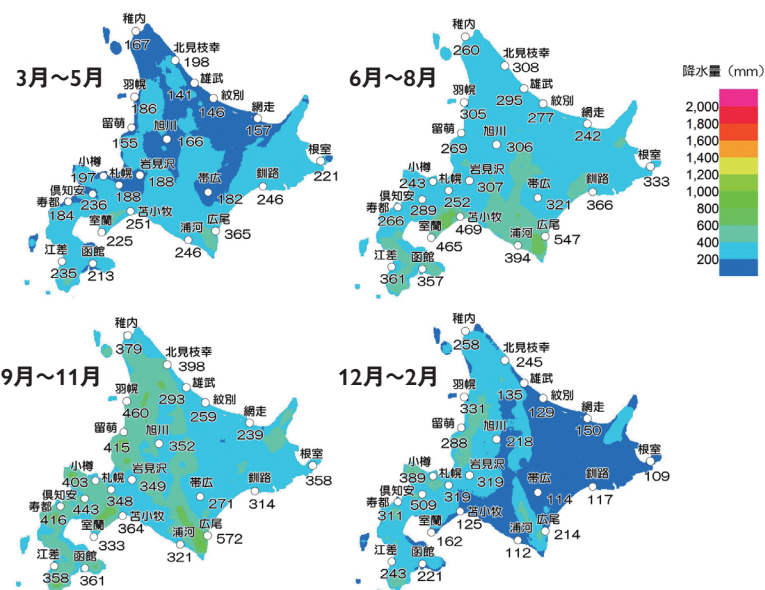
主な地点の気温と降水量



日最高気温 (8月の平均) と日最低気温 (1月の平均)



季節ごとの降水量の平年値



8月の最高気温は札幌周辺でもっとも高く (26.4℃)、1月の最低気温は帯広周辺でもっとも低くなります (-13.7℃)。降水量は夏 (6~8月) や秋 (9~11月) に多く、日本海側では冬 (12~2月) に雪が多く降ります。

気象災害の歴史

台風や豪雪によって大きな被害を受けています。とくに1947(昭和22)年から1948(昭和23)年にかけてカスリーン台風、アイオン台風という2つの大型台風が相次いで上陸し、北上川が氾濫してたくさんの犠牲者が出ました。

| 年月日 | 災害種別 | 死者・行方不明者数 | 被災地 | 概要 |
|--------------------------------------|------|-----------|------------------|---|
| 1944年 3月10日～12日 | 大雪 | 164 | 岩泉町 宮古市 | 低気圧の通過によって岩手県沿岸で大雪となり、雪によるものとしては最大級の被害が出た。死者の大部分は北部山間地および沿岸地方の製炭夫であった。 |
| 1947年 9月15日～16日 | 暴風雨 | 212 | 全県 | カスリーン台風の通過により、各河川とも大出水となり、いまだかつてない大水害となった。 |
| PICK UP 1948年 9月15日～17日 | 暴風雨 | 709 | 一関市 宮古市 ほか | アイオン台風の接近により、ものすごい豪雨となり、前年のカスリーン台風を上回る大水害となった。とくに一関市では再び濁流に襲われ、多くの死者を出した。 |
| 1959年 9月26日～27日 | 暴風雨 | 29 | 全県 | 伊勢湾台風が衰えながら日本海を北上し、27日朝には秋田県の西方海上に達した。岩手県では大船渡沖でサンマ船が沈没するなどの被害が出た。 |
| 1963年 1月6日～7日 | 豪雪 | 11 | 県北 | 6日から7日朝にかけて降った雪により、県北地方で電線着雪による通信線・送電線などの切断被害が多発し、列車やバスなどの交通機関が混乱。また雪崩や吹雪により犠牲者が出た。 |
| 2016年 8月30日 | 豪雨 | 23 | 県東部 | 強い勢力を保ったまま台風が大船渡市付近に上陸した。台風が東北地方の太平洋側に上陸したのは1951年の統計開始以降、初めて。河川の氾濫により多くの人命が失われた。 |

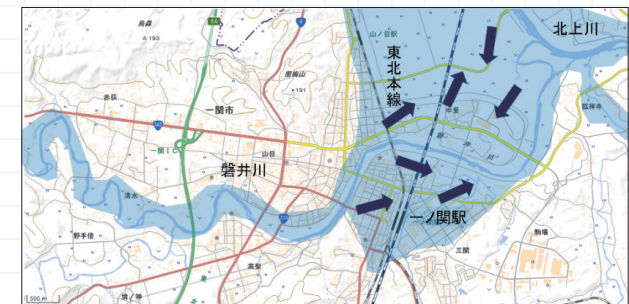
“ 機関車を転覆させた水の勢い ”

1948年のアイオン台風

1 948(昭和23)年9月10日に発生したアイオン台風は、猛烈な勢力で房総半島に上陸し、9月17日には三陸沖へと駆け抜けました。岩手県では16日午後から夜にかけて大雨となり、県内では死者・行方不明者が709人にも上りました。

とくに一関市では、^{いわい}磐井川があふれて市街地を襲い、大きな被害になりました。水の勢いはすさまじく、一ノ関駅では機関車が転覆してしまうほどでした²⁵。生存者によると、「濁流は2階まで押し寄せてきました。ものすごい流れが家を押しつぶす。ぐらぐらと来たと思った瞬間、私たちの身体がぶつかり合い家はもろくも崩れ流れの中へ。泣き叫ぶ子供の声。子を探す親の声。濁流の中に落ちていく悲痛な叫び。それはまるで生き地獄そのものでした」といいます²⁷。

この被害を受けて、磐井川と北上川の改修が行なわれました。磐井川では、堤防が築かれ、川幅が広がり、蛇行していた河道がまっすぐになりました。また北上川の水が逆流するのを防ぐため、遊水地がつけられました。これらの工事には50年以上の年月がかかりました。



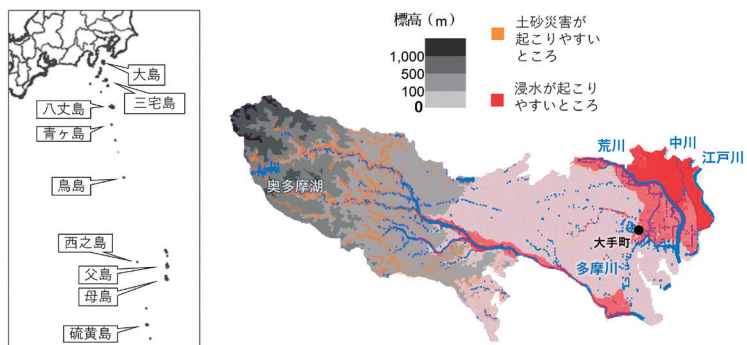
アイオン台風によって浸水した範囲(水色)と水の流れ(矢印)。背景は地理院地図。内田(1988)²⁶に基づき作成した(国土地理院「地理院地図」に加筆)。

東京都

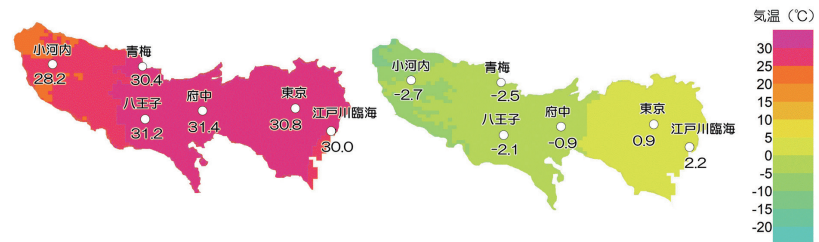


| DATA | |
|---------|---|
| 都の木／都の花 | ・イチヨウ／ソメイヨシノ |
| 都庁所在地 | ・新宿区 |
| 面積 | ・2194 km ² (45位) |
| 人口 | ・1372万人 (1位) ¹⁾ |
| 主な日本一 | ・人口密度 ¹⁾ ・第三次産業従業者数 ¹⁾ |

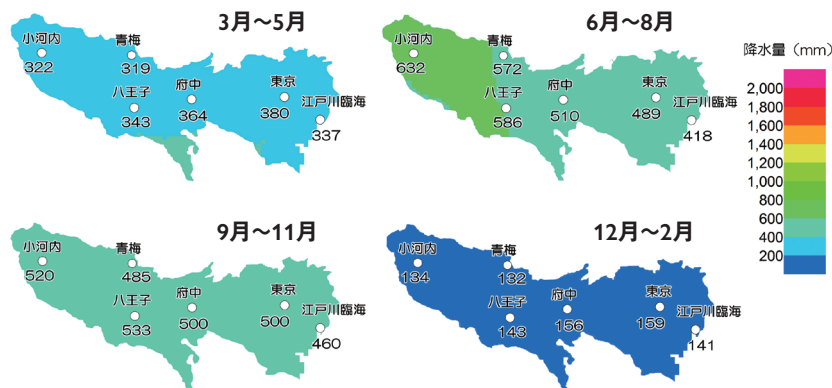
東京都の人口は1372万人で、そのうち176万人が海面よりも低い、いわゆる海拔ゼロメートル地帯に住んでいます。海拔ゼロメートル地帯で浸水が起これば、水の深さが数メートル以上にもなるおそれがあり、大きな被害が出る可能性があります。大島や八丈島は23区に比べて降水量が多く、とくに八丈島では2倍近い降水量が観測されます。一方、父島は23区よりも降水量が少なく、1年を通して温暖な気候です。



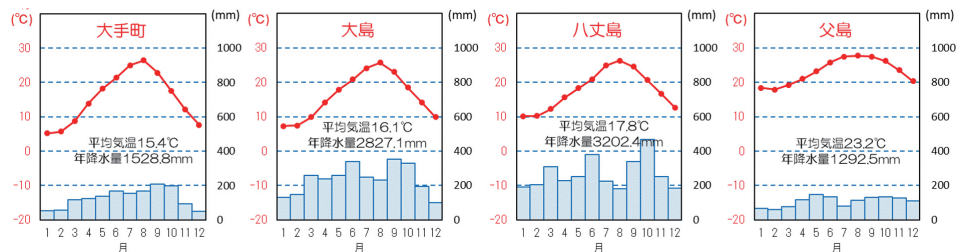
日最高気温(8月の平均)と日最低気温(1月の平均)



季節ごとの降水量の平年値



主な地点の気温と降水量



東京都区部・多摩地区では、8月の最高気温は府中周辺でもっとも高く(31.4℃)、1月の最低気温は小河内周辺でもっとも低くなります(-2.7℃)。降水量は夏(6~8月)に多く、冬(12~2月)には非常に少なくなります。